

# 特集 中央区の歴史をたどる

**桑園**  
開拓使が旧庄内藩の士族に桑を21万坪の土地に植えさせたのが始まり。この地区に住む人は蚕を飼うことを勧められ、桑畑が広がっていたので桑園と呼ばれるようになった。

**大通**  
大通は開拓判官島義勇が札幌のまちをつくり始めたときに空間として設定されたもの。これは、官と民の境界であり、火防のためでもあったことから火防線とも呼ばれた。

**宮の森大倉山**  
秩父宮、高松宮が来札しスキーを楽しまれたことにちなんで宮の森と呼ばれた。また、大倉喜七郎男爵がシャントエを造り上げ、札幌市に寄贈したことから大倉山と名付けられた。

**円山**  
1870（明治3）年、この地区に東北地方から30戸、90人が移住して開かれた庚午三の村が円山の始まり。北海道を代表するカラマツもこの地区の養樹園で試植したのが始まりとされている。

**西**  
大正始めまでは沼や川があり、一面は原野であった。人通りもななく静かなところであったので、にぎやかな薄野と比べて「しずか野」と呼ばれる地域も。市電の開通とともに活気があふれるようになった。

**南円山**  
東北地方から農民が移住して開かれた庚午三の村が始まり。1947（昭和22）年の出張所の設置により、円山が北円山と南円山に分けられ、その地名が今に残っている。

**幌西**  
藻岩山の豊かな自然を背景とし、農地への開墾が行われた。幌西の名は、旧札幌市の西に位置することから付けられたものであるが、幌西小学校の校名が地区の名として定着したとも言われている。

## 文化資料室へ行ってみませんか？

豊水小学校跡にある文化資料室は、札幌の歴史や文化に関する資料の収集・保存を行い、市民の学習や研究に利用してもらうための施設です。

札幌の歴史をパネルで紹介する展示室や「新札幌市史」「さっぽろ文庫」などの郷土史を閲覧できる郷土史相談室などがあり、札幌の歴史をひもとくことができます。

また、定期的にパネル展や古文書講座、セミナー等も行っています。ぜひ、一度足を運んでみてはいかがでしょうか？

**（詳細）文化資料室**  
中央区南8条西2丁目  
☎ 521-0205  
<http://www.city.sapporo.jp/bunkashiryo/>

